

石川県立美術館だより

第328号 平成23年2月1日発行

BIJUTSUKAN
DAYORI

特集展示

■ 前田昌彦展 ～いざない～ 第3展示室

特集展示

■ 刀剣の美 加州刀を中心に 第2展示室

■ 前田家の天神信仰と文房具 前田育徳会尊經閣文庫分館



いざない10-跡 前田昌彦 平成22年(2010) 一前田昌彦展一



石川県指定文化財 刀 銘越中守藤原高平(花押) / 元和七年十二月 日
初代辻村兼若 元和7年(1621) 江戸時代 一刀剣の美一

- コレクション展示 主な作品
- 平成23年度 友の会会員募集
- 2月はじめの展覧会
- 行事案内
- 2月の企画展示室
- 所蔵品紹介

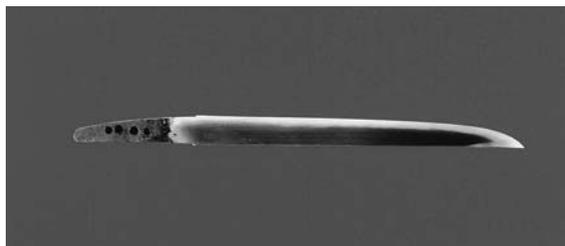
刀剣の美 加州刀を中心に

2月11日(金・祝)～3月26日(土)
会期中無休

刀剣は武器として制作されたものです。したがって、用を極限まで追求したところに美が現れます。それゆえ「刀剣の美」は装飾的な美ではなく、そうした思いをそぎ落とした凜とした美しさということができます。一般に、鉄は固く鍛えること曲がりにくいが折れやすく、柔らかく鍛えれば折れにくい代わりに曲がりやすいものです。しかし日本刀は、固く折れにくく曲がりにくく、さらに良く切れるという難題を、硬度の異なる鋼を用いて見事に解決しています。

今回は館蔵品、寄託品の中から、正宗を始めとする鎌倉時代から室町時代の比較的良好に知られた名刀と、室町時代から江戸時代まで加賀の地で作

られた、いわゆる加州刀を約二十口展示します。その中には、戦後連合国軍に武装解除の一環として接収された刀剣類のうち、東京都北区赤羽に集められたために、「赤羽刀」と呼ばれていたものが含まれています。「赤羽刀」はその後一部が日本に返却され、所有者不明の数千点が長年東京国立博物館に保管されていました。やがて平成十一年に、それぞれの刀剣にゆかりの深い各地の博物館施設に譲与されました。今回展示するのは、譲与された後に当館において研磨したものです。室町時代の家次や勝家、勝光の作を江戸時代の兼若らと同時に鑑賞していただけるのは、貴重な機会と言いうことができます。



短刀 無銘正宗 正宗作 鎌倉時代 14世紀

前田家の 天神信仰と文房具

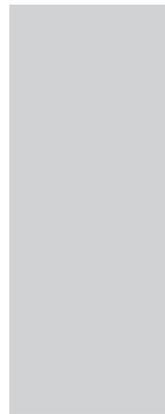
2月11日(金・祝)～3月26日(土)
会期中無休

「天神さま」と呼ばれ、親しまれる天満宮（天神社）の祭神・菅原道真。怨霊として恐れられることもありました。平安時代中頃以降、道真を祭神とする天神信仰の発生と広まりにともなって、多くの画像が作られ、江戸時代には学問の神としてさらに知られるようになりました。

前田家では藩祖利家の頃より、天神への信仰を行っていたと思われます。三代藩主利常は、菅原道真を祖と主張し、京都・北野天満宮を模した小松天満宮を建立するなど「天神さま」に深い崇敬を寄せました。つづく歴代の藩主も積極的に天神関係資料の収集を行い、領内においてもその振興が図られることになりました。

「天神画像」にはいくつかの種類がありますが、

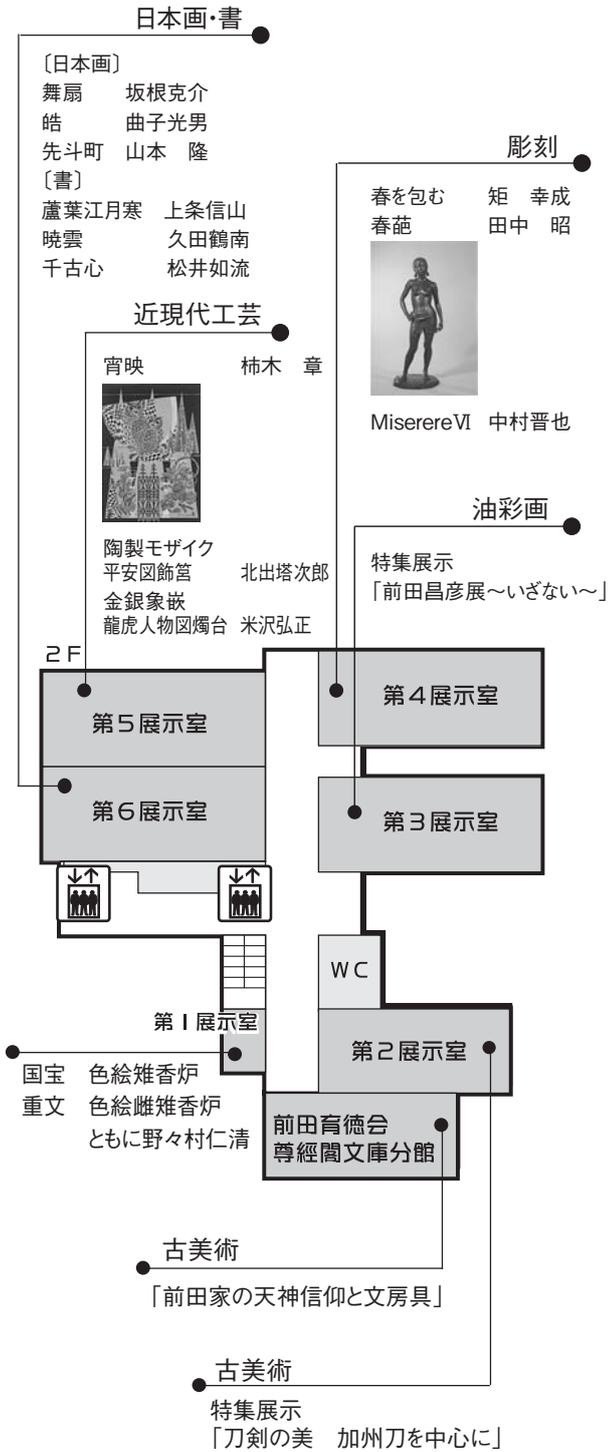
いずれも道真に関する説話に基づいたものです。大宰府へ送られる船中で、敷物がなく丸めた縄の上に座ったところ、あまりの惨めさに怒りが込み上げ、その表情を露にしたという「縄敷天神画像」。道真が中国へ渡り法衣を受けたという説話に基づき、中国風の装束を身に付け、梅の枝を持つようになった「渡唐天神像」などです。これらの姿は、「天神さま」が多様な神として親しまれた証であり、前田家先祖として「天神さま」を崇めた理由も、自在に変化する姿に対する憧れだったのかもしれません。今回は六點の天神画像のほか、文人志向の高まりの中で尊重され、前田家の雅な趣味がうかがえる文房具を展示します。



縄敷天神画像

主な展示作品

2月11日(金・祝)～3月26日(土)
会期中無休



前田昌彦展

～いざない～

2月11日(金・祝)～3月26日(土)
会期中無休

国画会会員・金沢美術工芸大学油画教授 前田昌彦氏の特集展示を行います。

前田氏は昭和二十八年滋賀県生まれ、五十一年に金沢美術工芸大学油画コースを卒業して東京芸術大学大学院に進み、五十四年からは仏政府給費留学生として二年間パリ国立高等美術学校に在籍、五十七年に帰国し母校金沢美大油画講師となり、現在に至っています。

本展は、前田氏がパリ留学中に描いた一九八〇年（昭和五十五年）の作品から最近作まで、三十年の創作の歩みを十八点の作品により、ご覧いただくものです。

前田氏は、抑制の利いた色彩と人体を主にした具象の構成によって、時代を捉えた作品を発表してきました。『静物』『家族の肖像』『拒絶する男』

『兵士』『トルソ』『銃口』『戦闘機』様々なモチーフがキャンバスに併置され、テーマは静から動へと展開していきます。一見平面的と思える画面は、大小の相似形や適切なヴァルールを持った色面により、空間を構成するのです。また画面には異なる時系列の像が描かれますが、こうした異時同図の構図は西洋の古典にも日本の絵巻にもうかがえるもので、前田氏が作品にストーリーを求めると共に、両洋の古典に連ならんとする意志を強く感じさせるものでもあります。

造形の追求と物語性、二律背反とみなされるこの二つの要素を、前田氏が今後どのように結びつけ展開してゆくのか、本展が画家にとって新たな出発点となり、より多くの方々に前田氏の絵画世界をご堪能いただく契機となれば幸いです。

◆講演会

二月二十日(日)
十三時三〇分～十五時
演題「私と作品の歩み」
講師／前田昌彦氏
(洋画家・金沢美大
油画教授)



画室 I 1984年

2月はじめの展覧会

1月4日(火)～2月7日(月) 会期中無休 ※「加越能の美術」のみ2月6日(日)まで

第6～9展示室

加越能の美術

石川・富山の美100選

―明治から現代の絵画・彫刻・工芸―

石川・富山の優れた近現代作品を紹介する本展も、残すところあと数日となりました。秋季に開催した「加越能の美術―縄文から江戸時代の名宝―」の続編であり、明治以降の名品を展示する本展は、石川、富山の持つ文化や芸術性の違いをさらに感じられると思います。藩政期から形成されてきた歴史的風土が、「作家層の厚さ」、とりわけ石川の「美術工芸王国としての基盤」につながっていると実感できるのではないのでしょうか。また、隣の県でありながら、意外と富山県の文化、芸術に触れる機会が少なかつたことに気づかれると思います。これを機会に「お隣富山」の石川とはひと味違う文化に興味を持って頂ければ幸いです。



前田育徳会 尊経閣文庫分館

前田家の雅

名物裂とは、中国の元・明・清の時代に製織された金襴・緞子に代表される染織品で、鎌倉・室町から江戸時代にかけてわが国に舶載され、茶道の発展とともにますます珍重されるようになりました。前田家では海外の文物に高い関心を持っていた三代藩主利常が、寛永十四年(一六三七)、当時海外貿易の唯一の窓口で舶来品の宝庫となった長崎へ家臣を遣わせて買い求めたコレクションで、名物裂の宝庫といわれます。新春にちなみ千支の「うさぎ」や吉祥文を配した金襴・緞子を十数展示しております。また、前田家には文房具のコレクションがあります。中国の文人思想の影響から江戸時代には文房具が愛玩されたのです。「うさぎの水入」が皆様をお待ちしておりますので、企画展とともに本展をお楽しみください。



入子菱繫ぎ地花兎文様金地金襴

第2展示室

新春を寿ぐ

今回の特集は今年の干支、兎を題材とした作品と、松竹梅などの吉祥図による絵画と調度、そして通常の用途とは別に縁起物として愛好されている能面などを展示しています。近年は、美術館に初詣という趣向も増える傾向にあるようです。年の初めに「お目出度い」作品に接すると、何か力をもたらすような感じがします。今回は長寿や財運興隆など、良いことがあるようにとの願いをこめて制作され、また数百年にわたって作られた願いととも鑑賞されてきた作品を数多く展示しています。これらの作品が醸し出す独特の雰囲気は、まさに新年を祝うにふさわしいものではないでしょうか。会期も少なくなってきました。この機会に是非ご鑑賞ください。



兎福寿草図(部分) 1782年 江戸時代 岸駒

第5展示室

香りをかざる

―現代の香道具―

香炉・香合・香盆―

今回の展示では香合が大半を占めています。伝統工芸展や日展などといった展覧会で見られる、比較的大ぶりの作品と違って、香合はほぼ手のひらに収まる大きさです。企画展「石川・富山の美100選」に出品している漆芸パネル「海の詩」の作者、三谷吾一氏の「鳥香合」を、この特集で展示しています。これは作者本人もお気に入りコメントしており、沈金の人間国宝・前大峰氏に師事した確かな技術と、卓越した意匠力に裏付けられた、小品ながら強い存在感のある作品です。松田権六、寺井直次、板谷波山、北出不二雄、西出大三など様々なジャンルの作家による、小品に展開する工芸作家たちの世界をお楽しみいただけます。



鳥香合 三谷吾一

第7展示室

金沢大学教育学部 美術教室卒業・修了制作展

2月11日(金・祝)～14日(月) 会期中無休

絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術教育の各分野の学部、大学院生による平成二十二年度卒業・修了作品を展示します。これらは、多様な分野へ進出を目指す学生達が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。展示点数は約二十五点、是非ご覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

◇入場無料

◇連絡先 金沢市角間町

金沢大学人間社会学域学校教育学類

江藤 望

TEL 〇七六一二六四―五五八二

二月の

企画展示室

本学美術文化学部美術工芸学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸)、情報デザイン学科の卒業制作、美術文化専攻科修了制作、また、文化財学科卒業研究の成果を発表いたします。ご覧いただき、忌憚のないご批評をくださいますようお願いいたします。

◇入場無料

◇連絡先 金沢市末町十

金沢学院大学美術文化学部 香林

TEL 〇七六一二二九―八七七五

昭和五十一年に郷土が誇る九谷焼の技術保存と発展向上を図るため、九谷焼技術保存会が石川県無形文化財として指定されましたが、本展はその技術保存会の事業の一つとして毎年行われている公募展で、今回は三十四回目となります。入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◇入場料 一般 三五〇円(二八〇円)

大学生 二八〇円(二二〇円)

高校生以下は無料

※()内は二十名以上の団体料金

当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◇連絡先 能美市寺井町よ二十五番地

石川県九谷会館

TEL 〇七六一―五七―〇一二五

第7～9展示室

第8回

金沢学院大学美術文化学部 卒業研究制作展

2月17日(木)～21日(月) 会期中無休

第7展示室

第34回 伝統九谷焼工芸展

2月26日(土)～3月13日(日) 会期中無休

平成23年度 友の会会員募集

3月1日(火)から受付開始!! 郵送でのお申し込みは郵便振替で
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

- ①募集定員 一、五〇〇名
- ②会費 二、〇〇〇円
- ③受付期間 三月一日(火)より開始。
募集定員に達し次第締め切り。
- ④入会手続き 次のA、B いずれかの方法。

A 直接来館してのお申込み

- ・会員証 / その場で発行。
- ・場 所 / 二階ロビー情報・図書コーナー
- ・申込方法 / 会費(現金)と同封の入会
申込書に所定事項を記入し
て提出。

・受付時間 / 午前九時三〇分〜午後六時
(休館日を除く)

※展示替えによる三月の休館日は、
二十七日(日)〜三十一日(木)。

B 郵便局からのお申込み

・会員証 / 三月末から美術館日より
と共に郵送。

- ・申込方法 / 同封の払込取扱票に所定事
項を記入し、最寄りの郵便
局(ゆうちょ銀行)窓口
にて支払い。払込手数料(窓
口一〇〇円・ATM八〇円)
は申込者負担。

・注意事項 / 同封の申込書を郵送する必
要はありません。払込取扱
票の受領証は、会員証が送
付されるまで大切に保管し
てください。

◇郵便局(ゆうちょ銀行) 備え付けの振
替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者
通信欄に右下の事項を記入して支払い。

- ・郵便振替口座 00700-7-46490
- ・加入者名 石川県立美術館友の会
- ・通信欄記入事項
年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、
職業、継続会員の方は現在の会員番号

⑤その他

◇会員証の有効期限

平成二十三年四月一日〜二十四年三月末日

◇会員証の対象

記名者本人のみ

(ご家族の方との連名受付はありません)。

◇一度納入された会費の返金はできません。

◇会員証紛失による再発行は受付ません。

会員の特典

- コレクション展に無料で入場可
(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券進呈
(春季・秋季・新春三回の企画展の
いずれか二回に無料で入場可)
- 企画展の開会式ご招待
- 入館料の割引(要会員証)
- ①同伴者二名まで、コレクション展、
企画展観覧料が割引。
- ②会員本人のみ、石川県立歴史博物
館、石川県七尾美術館、石川県輪
島漆芸美術館、石川県九谷焼美術
館、石川県能登島ガラス美術館、
金沢21世紀美術館の、各館主催展
覧会を割引。
- 館主催諸行事への参加。
- 最新情報をお伝えする『石川県立
美術館だより(本誌)』を毎月郵送。

二月の行事予定

十五日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ①「世界・美の旅」 ゴッホ 〜アルルのひ まわり〜 (三〇分) ②「世界・美の旅」 ゴッガン 〜野性へ のあこがれ〜 (三〇分)
十六日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ①「世界・美の旅」 ミレー 〜種まく人 は今〜 (三〇分) ②「世界・美の旅」 スーラ 〜点描の画 家〜 (三〇分)
二十日(日)	<p>■映像ギャラリー 十三時三〇分〜 美術館ホール 入場無料</p> <p>■講演会 十三時三〇分〜 美術館ホール 聴講無料</p> <p>演題「私と作品の歩み」 講師：前田昌彦氏(洋画家)</p>
二十六日(土)	<p>「石川の美術 プリミティブ・ ナイーブの造形」 北澤 寛 学芸専門員</p>
十九日(土)	<p>「石川の工芸 人間国宝と その周辺(2) 木工芸」 寺川 和子 学芸主査</p>
十二日(土)	<p>「石川の立体造形」 北澤 寛 学芸専門員</p>
五日(土)	<p>「鴨居玲と金沢美術」 二木 伸一郎 学芸第二課担当課長</p>
■土曜講座 十三時三〇分〜 美術館講義室 聴講無料	

石川県移動美術展

今年度は能美市で開催!!

2月12日(土)～2月20日(日) 会期中火曜日休み

二十四回目となる今年度の移動美術展は、初めて能美市で開催することになりました。能美市は平成十七年に能美郡の根上町・寺井町・辰口町が新設合併して発足しています。出品作家は、能美市出身・ゆかりの作家として判三教(油彩画)、西房浩二(油彩画)、梶本良衛(彫塑)、山下晴子(彫塑)らがいます。その他、坂根克介(日本画)、中出信昭(日本画)、鴨居玲(油彩画)、高光一也(油彩画)、宮本三郎(油彩画)、吉田三郎(彫塑)、寺井直次(漆工)、三谷吾一(漆工)西出大三(截金)など、石川県を代表する作家の作品、さらに江戸時代の歌川広重・国貞・国芳の浮世絵版画など、優品約四十点を一堂に展示いたします。どうぞご期待下さい。

会場 能美市根上学習センター一階展示ホール

石川県能美市大成町ヌー一一番地

(TEL) 〇七六一―五五―八五六〇)

開催期間 平成二十三年二月十二日(土)～二十日(日)

会期中火曜日休み

開場時間 午前九時～午後五時

入場料 無料



梶本良衛 ワ・タ・シナナニヲ

ミュージアムレポート 学校出前講座 どろでもミュージアム

学校出前講座、十二月の一校目は津幡町立笠野小学校。全校児童三十八人の小さな学校で、学校の後ろはすぐ山という自然に恵まれた環境にあります。対話型鑑賞では子どもたちの控えめながら、豊かな自然に育まれた素直な感性を感じることができました。すばらしい環境の中で毎日過ごしている笠野小学校の児童や教職員の方々が、うらやましく感じた出前講座でした。

そして、今年度最後の出前講座は、加賀市立片山津小学校。校長先生をはじめ先生方は大変熱心にこの講座に臨んでくださり、全校児童が鑑賞してくれました。はじめのうちは作品から受けた自分の想いを皆の前で言葉にすることに戸惑っていましたが、時間が経つごとに徐々に発言してくれる児童も増えてきました。授業後の教室での感想から、美術作品を鑑賞する楽しさを体験した児童がいたことを担任の先生からうかがうことができました。

今年度は、加賀市やかほく市など金沢から少し距離がある地域を中心に十校で講座を行いました。訪問した学校の皆様には、講座開設の折にいろいろと協力頂き、今年度の事業を無事終えることができましたことをお礼申し上げます。ありがとうございました。





画面に小山のように土坡（どは）を連続させて、奥行きと横の広がり表現する宗雪ならではの画面構成。その中央に二羽の兎を配して、手前の一羽は正面を、そして奥のもう一羽は左上方を見つめています。鑑賞者は画面全体に配された萩とともにこの兎の視線に誘導されて、こちらの画面には描かれていない秋の名月を連想します。本作は当初屏風として描かれたのですが、後に襖に改装されて使用されてきました。現在は屏風の形に戻されていますが、当初は左側にもう一隻あったと考えられます。そこには同じように連続する土坡と萩などの秋草、そして二羽以上の兎が描かれていた可能性が高いと考えられます。それでは満月は描かれていたのでしょうか。俵屋宗達や本阿弥光悦など、今日「琳派」と呼ばれる芸術家たちが能楽を深めたしなでいた事実を考えると、「せぬ所が面白き」という世阿弥の美学に鑑みて、月は描かれていなかったのではないのでしょうか。このように片隻が失われているうえに、画面の剥落も目立つ本作ですが、それゆえに現在の私たちは筆者が最も伝えたかった「あはれ」の美意識に深く共感することができます。

俵屋宗雪は、京の町絵師として一世を風靡（ふうび）した俵屋宗達が主宰した絵屋の俵屋を継いで、宗達の正式な後継者となった画家です。しかも法橋（ほつきょう）に叙任されているように、宗雪の能力は宗達と同様に宮廷からも評価されていました。また加賀藩三代藩主前田利常の命により、加賀藩の御用も務めています。

※二月七日(月)まで第2展示室 特集「新春を寿ぐ」で展示中。

3月の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第3展示室
前田家の 天神信仰と文房具	刀剣の美 加州刀を中心に	前田昌彦展 ～いざない～
会期: 2月11日(金・祝)～3月26日(土)		

ご利用案内

コレクション展観覧料
一般 350円(280円)
大学生 280円(220円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金

2月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00

2月7日(月)はコレクション
展無料の日です。

石川県立美術館だより 第328号 〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
2011年2月1日発行(毎月発行) Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

2月の休館日は
8日(火)～10日(木)です